

シライ電子工業 (コード 6658・ジャスタック)

業績推移 (連結) (予想は社発表分) は赤字 伸び率は前年同期の黒字額 配当性は連結ベース 単位・百万円 % 円

決算期	売上高		経常		一株当たり		配当 性向	売上高 経常利益率
		伸び率	利益	伸び率	純利益	配当		
09.3 : 第 2Q	15,638	- 9.4	202	324	19.1	-	-	-
10.3 : 第 2Q	9,696	- 38.0	46	-	1.9	-	-	0.47
09.3	26,568	- 19.5	831	8	114.8	0.0	-	-
10.3(予)	23,600	- 11.1	200	-	20.0	0.0	-	-

両面・多層板を中心にプリント配線板事業を展開

特色...両面・多層配線板が主力製品のプリント配線板メーカー。国内外に生産拠点をもち、国内の生産管理センターと中国の現地法人とが連携して、顧客の製品仕様や品質・納期などに関する情報を管理するなど、顧客のきめ細かいニーズに対応している。同社製品は、カーエレクトロニクス関連、デジタル家電関連、電子応用関連、アミューズメント関連、ホームアプライアンス関連 (冷蔵庫・エアコンなど)、通信・事務機器関連など、幅広い産業分野で採用されている。

厳しい受注環境ながらデジタル家電関連など一部に明るさ

減収でも経常黒字に転換...10年3月期の第2四半期(4月1日~9月30日)は、デジタル家電関連やカーエレクトロニクス関連では在庫調整に一巡感が出てきたものの、世界的な景気後退の影響が依然として残る中で厳しい受注環境が続き、売上高は前年同期比38%減となった。国内外別では、国内がカーエレクトロニクス関連において受注回復基調となったもののホームアプライアンス関連などその他の分野で市場が縮小。海外(中国・香港)でも昨年末の景気悪化による受注減少に価格競争回避の影響も加わって、デジタル家電関連をはじめ全ての分野で売上減となった。一方、販売費および一般管理費の圧縮や生産体制の再構築、製造原価低減策の取り組みなどの構造改革の進展により、営業利益は7,600万円(前年同期比38.8%増)となり、経常損益は4,600万円の黒字(前年同期:2億200万円の赤字)となった。

今期の通期も減収、経常赤字の見通し

赤字幅は縮小へ...今期の通期については売上高が前期比11.1%減の見込みで、経常損益は2億円の赤字(前期は8億3,100万円の赤字)へ、最終損益(2億8,000万円の赤字。前期:16億400万円の赤字)についても、前期の減損損失計上(4億6,400万円)がなくなるため赤字額が大きく縮小する見込み。10年3月期の下半期についても会社側では厳しい状況が続くと予測しており、国内外の景気や為替の動向が不透明であることなどから、期初時点の通期業績予想を変更していない。なお、今後の重点施策として、国内プリント配線板事業では、付加価値の高い製品群の販売比率の拡大や、生産現場力の強化で競争力のある製造原価の追求、超柔軟性透明基板など新商品開発の推進、ハイブリッドカーや太陽光発電、LED関連商品といった環境関連分野への基板供給拡大を図る。また、海外プリント配線板事業では、中国・珠海の自社工場生産品の確保と供給体制の増強、受注管理体制の強化を進めていく。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。